

九州からブーム広がる注目の新釣法。一般メディアも注目

船の「落とし込み釣り」

船の「落とし込み釣り」関西では「タテ釣り」と呼ばれるこの釣りは、ここ数年、長崎など九州でブームに火が付き、エリアが徐々に全国に広がりにつつある注目の釣りだ。

関西でも日本海や和歌山の一部、関東でもこの釣りが楽しめる釣り船が増えている。専用の竿や仕掛け等も出ている。

「落とし込み釣り」を簡単に説明すると、太いサビキ仕掛けを投入しエサがヒットするという釣りを解るはあたるうがフ

とるアジなどの小魚が方だ。地域によって「大型」がきつつあるのは間違ったそのままだ、さの喰わせサビキ」や「の」の「泳がせ釣り」そんな中、NHKもこ

ソムリエ・田崎真也氏が挑戦

田崎氏は日本釣用品工業会が主催する「国際フィッシングショー2010」の文化部門で

ロイヤルアングラード賞を受賞するなど「釣り好きの著名人」としても知られている。当日の詳しい釣果はNHKBSプレミアムに

「落とし込み釣り」の取っばん釣りの旅(12月11日9時半から放送)に譲るが、田崎氏も青物など

をほじめよい釣果となつたようだ。エイトグループの八尾社長も10kgを超えるヒラマサを釣り上げた。そして「道具の差が出る」というのも釣具の商売にとっては大事な要素

「落とし込み釣り」の「落とし込み」は船釣りを牽引する本命の1つだ。こういったチャンスをしつかり掴んでいきたい。いすれにせよ、品揃えを強化する店舗も増えていることから、出される新製品も増えてくるだろう。



ロイヤルアングラードも受賞した田崎真也氏も見事な青物を仕留めた。詳細は放送で。「落とし込み」の釣りは釣れる魚が大型青物や大型根魚など高級魚が多いのも特徴だ



日本を代表するソムリエとして著名な田崎氏。新鮮な食材が得られる「釣り」も相当な腕前だそう



大型魚が釣れる船の「落とし込み釣り」。来年は全国的なブームも予想される



エイトグループの八尾社長も10kg超えのヒラマサを仕留めた